

## 日本小児神経外科学会に参加して

久留米大学病院臨床検査部

水島 靖子

学会参加の始まりは、「水島先生、富山で開催される全国学会で発表しませんか？のど黒食べに行きましょう！」といった当院脳神経外科の下川先生からのお誘いからでした。長年、超音波検査に携わってきた私には、小児神経外科学会は未知の領域の学会であり、抄録をみても筆頭者に検査技師の方は見当たらないし、場違いではないかと正直不安しかない状態でした。それでも、発表に向けて先生の指導の下ディスカッションを重ね、しっかり準備を進めてきましたし、超音波検査のことに關しては絶対の自信をもって答えようと思い発表に臨みました。本番では、緊張もありましたが、発表タイトルにもある「脊髄エコーの有用性」について、私なりに提言できたのではないかと思いますし、もっと知ってもらいたいと思いつながり発表を終えることが出来ました。

2日間の学会で、シンポジウムや講演を拝聴し、ポスターを拝見しながら感じたことは、対象症例が小児だけに胸が詰まる内容が多いことでした。専門性の高い学会ですので、エコー畑の私に内容が分かるのだろうかと思いましたが、身近な内容もあり、少しは知識を増やして帰れたかなと思っています。学会前にヘルメットを被っている乳児を見かけたのですが、「ヘルメット矯正治療」に関する講演を拝聴して、これなのねと早速学ぶことが出来ました。

全体的にアットホームな雰囲気の学会でしたし、お話することができた先生は、優しく面白くて、ウェルカムな感じであり、また是非参加したいと思いました。そして、今後メディカルスタッフの発表も増えれば良いなと感じております。因みに、あのお刺身がのど黒だったのか分かりませんが、富山で美味しいお魚をたくさんいただきました。

最後に、ご指導していただきました下川先生、発表の場を与えていただきました学会関係者の皆様に感謝いたします。